

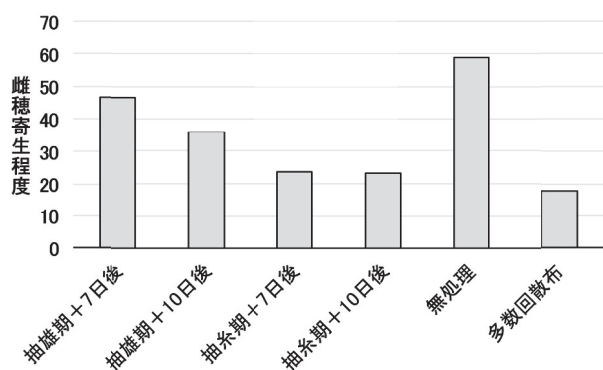


図1 アブラムシの防除適期

表1 アブラムシとアワノメイガに対する体系防除

処理区	アワノメイガ 茎・雄穂 被害株数/60 株	アワノメイガ被害 雌穂数/50穂		アブラムシ 寄生雌穂数/50 穂	
調査日	8/7	8/15-16		8/15-16	
体系A	0.0	0.7	(6.0)	1.0	(3.0)
体系B	1.7	0.3	(2.6)	0.3	(0.9)
無処理	33.0	11.7		33.7	

注) 2017 年上川農試場内試験 4 回の平均

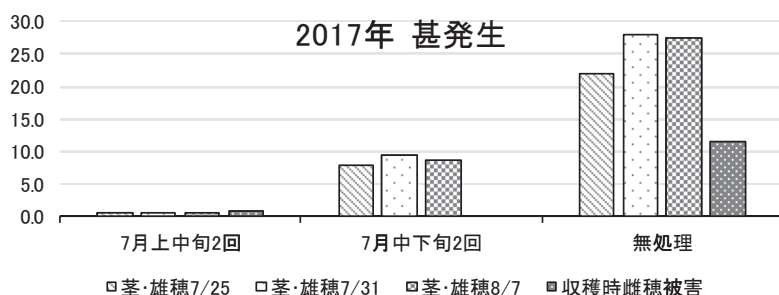


図2 アワノメイガの防除適期 (道南農試)

注) クロラントラニリプロール水和剤 F 使用 茎・雄穂は50株当りの被害本数、雌穂は50穂あたりの被害穂数

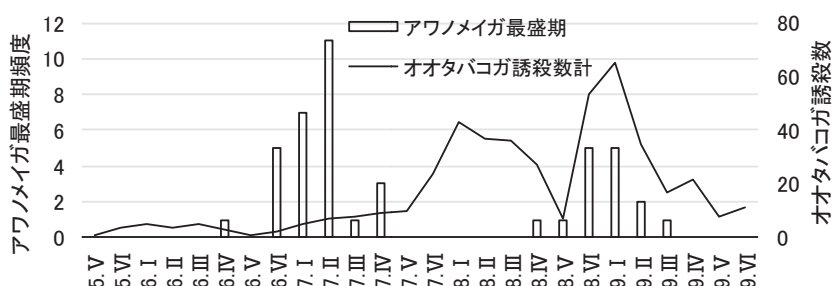


図3 フェロモントラップへのアワノメイガ誘殺最盛期分布とオオタバコガの半月毎の誘殺合計

注1) 上川農試、道南農試、留萌管内 A 町、上川管内 B 市、胆振管内 C 市、渡島管内 D 町における2014～2017年の調査の集計
注2) 横軸の I～VI は、各月の半月を示す

表2 8、9月どりスイートコーン害虫の防除法

対象害虫	防除の位置づけ	防除時期	防除回数	備考
アブラムシ	基幹	絹糸抽出期+7～10日後 多発時に追加防除	2(1～2)	①内は追加防除の回数。高温経過の場合に発生が多くなることもあるので注意する
アワノメイガ	常発地域	7月上旬+10日後	2	幼虫の越冬密度を減らすため、収穫後の残渣を適切に処理する
オオタバコガ	発生対応	絹糸抽出揃い以降	1～2	フェロモントラップに誘殺があった場合、または病害虫発生予察情報に基づき対応
ヨトウガ	発生対応	食害があった場合	1	多発生時のみ

注1) YES!clean 使用基準内で防除する場合は、地域に発生する害虫種を考慮して殺虫剤総使用回数を6回以内にします。
注2) 薬剤は本成績を参考に指導・登録薬剤を選択する。また、抵抗性発達を防ぐため同一系統薬剤の連用を避ける。
注3) ヨトウガに対する登録薬剤は、エマメクチン安息香酸塩乳剤がある。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。

道総研上川農業試験場

電話 (0166) 85-2200 E-mail : kamikawa-agri@hro.or.jp